手紙No.50

手紙No.50

（1882年8月21日頃、シムラにて受領）

親愛なる友よ、私は、この避けがたい反対の絶え間ない態度と、私たちの拠り所への絶え間ない攻撃とで、（精神的に）ひどく落ち込まされるのを感じています。私の静かで思索的な人生の中で、これほど粘り強く理不尽な人間に出会ったことはありません。もし、あなたが彼に友好的な影響力を行使できないのであれば、遠くない日に、私たち全員が別れることになるでしょう。今封入している手紙を受け取ったとき、私はチョーハンと一緒にいましたが、チョーハンは完全にうんざりして、このすべてをチベット語の「お笑い」と呼びました。彼は「良いことをしたい」とか「TS（神智学協会）の進歩を助けたい」と思っているわけではなく、単に、信じられないかもしれないが、彼の中の飽くなきプライド、自分が「選ばれた者」であると感じ、他の人に見せたいという猛烈な欲求、他のすべての人がほとんど疑うことを許されないことを自分が知っている、ということなのだ。抗議しても無駄だから、抗議してはいけない。私たちは知っていますが、あなたは知りません。チョーハンは先日、「妻」の馬鹿馬鹿しくも痛切な嘆きを聞き、それをメモにとりました。このような者は「完全なる魂」を目指す者ではないし、ファーンについて私に書いたようなことを兄弟の神智学徒に書くような者は神智学徒ではないのです。このことは厳重に秘密にして、彼には私の手紙に書かれていること以外は知らせないようにしましょう。あなたが彼に渡す前に、この２通の手紙を読んで欲しいのです。

チェスニー大佐のために何ができるかを考えてみます。ジュアル・クールが彼を追っていると思います。私は生まれて初めて本当にがっかりしたと思います。しかし、協会のために、私は彼を失いたくないのです。私はできる限りのことをするつもりですが、彼がいつか自分で同胞（broth）を台無しにしてしまうのではないかと、真剣に恐れているのです。

心からの愛情を込めて

ＫＨ